

Point

2022/11/9 No. 14

JR東労組青年部

(東日本旅客鉄道労働組合青年部)

発行責任者 宮下 洋介

申6号 年末手当等に関する申し入れ 第2回交渉

青年部の主張 若手社員の人材流出について訴えてきました!

・ 離職率は高い水準ではないと言うが我々の認識と乖離がある。

1ヶ月半で1人が退職し、今年で7名の退職者が出ている職場があり、非常事態であるという現場の認識である。

・ 若手社員の意見として

「入社年数が少ないと基本給が低く、期末手当で生活費を補填している」

「家族状況も踏まえ、会社の施策の為に考えたプランが汲み取ってもらえない」

「鉄道が好きで入社したが、一生懸命仕事をしてもらわれるだけ使われて終わり。業務や責任が重くなっても給料が他企業と比べて低いので転職を決めた」

など多く出ている。物価高による生活への打撃や自分たちの雇用問題、将来の不安に駆り立てられている。このような状況下で入社したにも関わらず、見切りをつけて他企業に転職している若手社員が多くいる。そのようは現実を見れば魅力がない企業になってきている。



会社の主張



楽観視しているのはどっちだ



・ 離職率は過去に比べて上がっているのは事実。世間相場からしても低いが上がってきている。

・ 高い意欲があるが能力を活かす場所がないという声もある。

・ 離職については会社としても強い課題意識はある。客観的に見れば、他企業と比べれば高い水準ではない。離職が高い低いではなく、状況に応じながら社員が安心して働いていくために常に考えていきたい。

・ 会社としても何もやっていないということではない。新たな組織・仕事に向けて、新たな施策を推進している。

・ 若手社員中心の早期離職は課題であると認識している。



賃金は社員のモチベーションの最たるものだ!

満額回答を強く求める!

